

ACTIVO 通信

第 1 号 2015 年 12 月

ホンジュラス国金融包摂を通じた CCT 受給世帯の生活改善・生計向上プロジェクト

- 貧困者比率が 6 割以上と言われる中米ホンジュラスにおいて、自立発展的な貧困削減を目指しています。
- 現地でのプロジェクト愛称は ACTIVO です。このため、当プロジェクトを進める貧困削減モデルを、ACTIVO モデルと呼びます。これは、スペイン語のスローガンである「より良い生活のための貯蓄、金融口座、労働及び収入 (Ahorro, Cuenta financiera, Trabajo e Ingreso para la Vida Optimizada)」の頭文字をとったものです。
- スペイン語の ACTIVO には、英語のアセット(資産)とアクティブ(活動的)の両方の意味があります。この ACTIVO モデルを使うことで、最貧困層が「活動的に資産形成すること」ができるようになり、結果、外的ショック(治安流動化、自然災害、流行病等)が発生した場合でも、これに耐えることができるようになります。これにより、最貧困層は、家計・生計を安定的に維持又は強化できるようになります。
- ACTIVO モデルでは、最貧困層の家計管理、金融利用、生計向上活動(生業ビジネス等)を総合的に強化します。

プロジェクト実施体制構築 各地でプロジェクト事務所開設しました!!	ベースライン調査完了 最貧困層 2 千世帯を調査しました!!	最貧困層向け模擬研修実施 家計簿導入研修に約 450 名参加!!
<p>2015 年 2 月にプロジェクトが開始されました。まずは、プロジェクト実施体制を構築することが課題です。</p> <p>現地側実施機関の社会統合副省は、様々な貧困削減施策の実施機関でもあります。2015 年 3 月、社会統合副省の脆弱層支援部と人間開発普及部を中心に、プロジェクト実施チームを形成しました。</p> <p>これに加えて、プロジェクト対象 5 市の各々においても、現場実施チームを形成しました。この現場実施チームは、各市の自治体、コミュニティリーダー(町内会の会長等)等で構成されます。現場実施チームは、今後、最貧困層向けの研修・コーチング実施を担当していきます。</p>  <p>市自治体の好意により市庁舎内に設置されたプロジェクト現場事務所(ラス・ベガス市、2015 年 3 月)</p>	<p>2015 年 5～9 月、対象 5 市の約 2 千世帯のベースライン調査を行い、世帯現況等を確認しました。その目的は、①今後の支援検討、②パイロット支援期間終了後における効果測定の前準備等のためです。調査の結果、以下のような事実が判明しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 村落部では、調査対象となった最貧困層女性のうちの 3 分の 1 程度が読み書きできない。 ● 家計管理を工夫している世帯ほど、経済活動も活発になる様子が窺える。 <p>こうした調査結果を踏まえ、家計管理強化を通じて、まず「お金の扱い方」に習熟してもらった上で、最貧困層の生計向上を図っていきます。</p>  <p>サン・ラファエル市現場チームでの活動企画会議(2015 年 11 月)</p>	<p>ACTIVO プロジェクトでは、第 2 年次以降、本格的に、最貧困層向けの研修・コーチングを行っていきます。これに先立ち、2015 年 8～10 月、対象 5 市各地で、家計管理の模擬導入研修を行いました。次年度以降の研修企画に役立てるためです。</p> <p>この模擬研修には、合計で、女性 396 名、男性 53 名が参加しました。</p> <p>模擬研修では、「必ずしも教育水準の高くない最貧困層に対して、どのように家計管理を強化したら良いのか」、「今後の本格的研修の際に、どのように地元コミュニティの協力を取り付けられるのか」といったことについて、試行を通じて、関係者と議論を深めることができました。</p>  <p>ラス・ベガス市での家計簿導入に係る模擬研修(2015 年 10 月)</p>

注:ACTIVO 通信に掲載されている見解については、独立行政法人国際協力機構及びホンジュラス政府の公式見解と一致しないこともあります。